
天使の道しるべを

Kケン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天使の道しるべを

【Nコード】

N0325Q

【作者名】

Kクン

【あらすじ】

一之瀬連《いちのせれん》は極々普通の高校生である。可もなく不可もなくといったあたりきたりな高校生活をおくっていた一之瀬連だが、三年次のクラス替えて転機を迎えることに。教室にがっていた光景に一之瀬はただただ啞然とするばかりであった。

暗い過去によって性格がひねくれてしまったこと意外は至って普通な男子高校生と、非常に特殊なクラスメイト達が織り成す青春ストーリーである。

四月 出会い、急発進！

夢を見ていた。ありきたりで、思い出すことも出来ない程度の夢だ。しかしどこか暖かく、それは今の俺が忘れてしまったなにかなのだろうと勝手に想像するのであった。忘れたものを思い出すのは用意ではないのだ。

「ん…朝だ」

俺の朝にむにやむにやなんて可愛いらしい余韻はない。小鳥のさえずりや部屋に差し込む朝日を一身に受けたところで特に感想はない。

もう少し些細なことに感動してもいい年頃なのだろうが、いかんせんコレが俺である。

階段を下り、居間に顔を出すと父と母がすでにテーブルについて朝食を食べていた。

「おはよう、時間ギリギリじゃないの？いつものようにおにぎりつくってあるから」

「ん」

朝に弱い俺は、呑気に朝食なんぞを一家団欒で囲んでしまうと完璧遅刻してしまう。

なので朝食は母がおにぎりをつくり、それを学校までの間で食べるのである。

スッ

これが身支度を終えて玄関から外へと境界線を跨いだ男の効果音である。

いつからか俺は行って来ますも言わない無愛想になっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0325q/>

天使の道しるべを

2011年1月13日02時21分発行